

■ 全体講評

今回の午後Ⅰ記述式試験では、問3の採点基準が厳しく、組込みシステム分野から出題した問4においてケアレスミスが多かったため、午後Ⅰ記述式試験の平均得点は、例年通り低かったです。午後Ⅱ論述式試験では、選択した受験者が全体の7割ほどと多かった問1において、趣旨に沿って論じることが難しく、全体の平均得点は、例年通り低いです。

これら平均得点が低いというのは、問題の難易度が高いこと、及び本試験に向けて確実に得点するために採点基準を厳しくしていることもあり、問題の選択記入漏れが2~3件と例年に比べて少なく、今回の本試験は受験者の合格意識やレベルの高い試験になることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して得点力をアップし、確実に合格を目指しましょう。

■ 記述式試験

記述式試験において60点を突破するために留意すべき点を、記述式問題別に挙げておきます。具体的には、各問題の講評を参照してください。

問1 請求管理業務の効率化

- (1) 問題文にあるキーワードは正確に引用する
- (2) 問題文に書かれているとおりの表記方法で解答を作成する

問2 業務及びシステム移行

- (1) 締めについて前月の締日の翌日から今月の締め日までが通常の集計期間であることを確認する
- (2) 解答は問題文の記述の粒度に合わせて作成する

問3 在庫管理システムの統合計画の立案

- (1) 棚卸については高い頻度で出題されるので、概要を確認しておく
- (2) 問題文を読んでいて解答のキーワードと推測できる言葉は、しっかりと解答作成までキープしておく

問4 自動運転支援システム

- (1) 計算問題は設問条件を再度確認してから解答欄に記入する
- (2) 解答はケアレスミスに留意して注意深く表現する
- (3) 問題文にあるキーワードは正確に引用して解答を作成する

更に、記述式問題を解く上での留意点を、次に挙げておきます。

(1) 難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に得点して、得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって、時間が余ったら、既

に解けていると思った解答も、全ての解答条件を満たしているか、確認するようにしましょう。

(2) 記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だけでなく、問題を選択するのではなく、表などに小さい字で書かれていないかなどについてもチェックしましょう。

■ 論述式試験講評

論述式問題では、基本的な部分ができている、あるいは、論文としての体裁が整っていない解答がありました。次の点に留意してください。

(1) 質問事項の回答漏れをなくす

答案用紙の先頭にある質問も採点対象です。論述後に書こうと思っている人に、記入漏れが多いようです。遅くとも論文設計が終わったら、回答を書くようにしましょう。

本試験開始前にも問題がないことを確認した上で、答案用紙を開いて質問事項を確認しておくようにしましょう。そのとき、設問イや設問ウの論述開始箇所も確認しておきましょう。

(2) 計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において、最初に問われている①名称の30字が計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾すること、例と同じ語尾になることも大切です。本番の試験でも、質問事項は採点対象なので、漏れなく回答するようにしましょう。

(3) 論文は1枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書くと、双方のページに字が写るので、論文は1枚ずつ書くようにしましょう。

(4) 事例の詳細を書く

一般論を書いているのは、合格は難しいです。「一般的には～」などと書かないようにしましょう。「～という～の特徴を踏まえて」など、論述の題材とした事例の特徴を踏まえて論旨展開をすることが重要です。

(a) 禁則処理をする

(b) 箇条書きで、節を書き始めない、書き終えない
(c) 「いただく」、「お客様(固有名詞を除く)」などの丁寧語は使わない

(d) 「思う」は使わない

(e) 括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない

(f) 問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(g) 略字を書かない

(h) 「である」調に統一する

(i)誤字に留意する。例えば、「購買」を「購売」、「実績」を「実積」などと書かない

(j)箇条書きのタイトル以外で、体言止めを使わない

(k)500字を超える長い段落は読みにくいので、適切な長さで段落を構成する

以上、細かいポイントですが、このような点に着目して採点をするケースもあると考えてください。

次に午後の記述式試験の詳細な講評を説明します。

<午後Ⅰ>

問1 請求管理業務の効率化

【講評】

問題文にあるキーワードは正確に引用するようにしましょう。例えば、[設問1] (1)において「消費税額」を「消費税」、[設問2] (1)の空欄dの「検収年月日」を「検収日」と記述した解答が散見されました。本試験では不正解となるので、正確に引用するようにしましょう。

問題文に書かれているとおりの表記方法で解答を作成することが重要です。システムアーキテクト試験においては標準的な表記方法で記述できる技術者かについても問われます。例えば、問題文の表1を確認すると、「入金済」ではなく「入金済」になっています。したがって、[設問2] (4)の空欄gの解答は、「入金区分に入金済を設定」ではなく、「入金区分に“入金済”を設定」と書けるようにしておく必要があります。

解答の数はできるだけ絞り込むようにしましょう。例えば、[設問3] (2)において“1対多”と“多対多”の両方を挙げている解答が散見されました。厳しいですが、不正解としました。

【設問1】

(1) 正答率が高い設問でした。

(2) 「請求年月日」と「処理日」を必須としました。

【設問2】

(1) 正答率が高い設問でした。

(2) 空欄eに該当するプロセス名にある“請求ファイルへの追加”という記述に着目すると、空欄eに当てはまる“請求書番号の採番”という解答を推測できたかもしれませんが、正答率が低い設問でした。

(3) “請求年月日に顧客締日年月日を設定”を必須としました。

(4) 正答率が高い設問でした。

【設問3】

(1) 旧請求書作成処理では月末締めしか対応できませんでしたが、新請求書処理では顧客が指定できるようになった点に着目すると正解を導けたと考えます。正答率が低い設問でした。

(2) “1対多”という解答が散見されました。厳しいですが、不正解としました。

【採点基準】

【設問1】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点、その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点、ただし、「請求年月日」又は「処理日」のない解答は2点、その他は、基本的に0点。

【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点、その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点、その他は、基本的に0点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点、ただし、「請求年月日に顧客締日年月日を設定」は必須、その他は、基本的に0点。

(4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点、その他は、基本的に0点。

【設問3】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点、その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点、その他は、基本的に0点。

問2 業務及びシステム移行

【講評】

締めの期間については、高頻度で問われるポイントなので、締めについて前月の締日の翌日から今月の締日までが通常の集計期間であることを確認するようにしてください。具体的には、[設問3] (1)において、開始が「前月締日から」や「前月10日から」となっている解答が散見されました。

解答は問題文の記述の粒度に合わせて作成するようにしましょう。例えば、[設問4] (1)において、「直近の締日の翌日」などという解答が散見されました。解答解説にあるように問題文には「月内で一番早い締日が10日締め」と書かれている点に着目して具体的に解答を作成する必要があります。

【設問1】

正答率の高い設問でした。

【設問2】

解答解説のとおり「新システムへの移行要件を踏まえ」という記述にしたがって、新システムの移行要件の中から解答を導く記述を絞り込む必要があります。したがって、手数料計算に関する解答は移行要件にないので不正解としました。

新システムの移行要件の中から解答を導く場合、「移行期間中は、仕入先への発注は新システムからだけにする」ことを根拠に導く解答も考えられます。この場合は発注データを現行システムから新システムに送る必要があります。しかし、設問文では「全トランザクションデータ」とあります。これを理由に、厳しいですが、「移行期間中も、全社分の管理帳票を出力できるようにする」ことを根拠に導いた解答だけを正解としました。

〔設問 3〕

- (1) 「在庫管理機能」を必須としました。
- (2) 「営業所システムの帳票出力機能」という解答が散見されました。問題文の図 3 の内容から並行期間中に新システムを利用している営業所では営業所システムから管理帳票を出力していることが分かります。したがって、現行システムである営業所システムの帳票出力機能は並行期間中でも必要と考えることができるので、この解答については部分点としました。

案 1 を選択したので、問題文の記述から、新システムの注文管理機能を使用して注文及び納品を行うことが分かる。したがって「本社システム(現行システム)の発注機能」及び「営業所システム(現行システム)の注文管理機能」も正解としました。

(3)

〔設問 4〕

- (1) 厳しいですが、「11 日」という記述のない解答は不正解としました。
- (2) 「TB から売上計上機能が動作すること」という旨の解答が散見されました。解答解説に書かれているとおり、設問文にある「全営業所で実施すべき」という設問の記述に着目すると、解答が絞られてくると考えます。サービス開始時点から全営業所において新システムの注文管理システムを使うこと、新システムは Web ブラウザを使うことが解答を導くための記述となります。正答率が低い設問でした。

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例と同じものに対し各 4 点、その他は基本的に 0 点。

〔設問 2〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。

〔設問 3〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、ただし、「在庫管理業務」は必須、その他は基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同じものに対し 6 点、ただし、本社システム(現行システム)の発注機能」及び「営業所システム(現行システム)の注文管理機能」も 6 点、「営業所システ

ムの帳票出力機能」は部分点 3 点、その他は基本的に 0 点。

- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、ただし、「新システムからの納品情報」は必須、その他は基本的に 0 点。

〔設問 4〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、「11 日」は必須、その他は基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。その他は基本的に 0 点。

問 3 在庫管理システムの統合計画の立案

【講評】

棚卸については高い頻度で問題文に現れるので、概要を確認しておくようにしましょう。

「デッドストックリスト」や「実地棚卸」など、問題文を読んでいて解答のキーワードとなると推測できる言葉は、しっかりと解答作成までキープしておくようにしましょう。具体的には、〔設問 2〕(3)の「デッドストックリスト」というキーワードが該当します。

〔設問 1〕

- (1) システム：P 社と Q 社の在庫管理システムを連携させるという考え方で「P 社と Q 社の在庫管理システム」という解答が散見されました。下線①の内容では、P 社と Q 社の在庫管理システムを連携させる方法ではなく、X 社の物流管理システムを改修しています。したがって、「P 社と Q 社の在庫管理システム」という解答については、厳しいですが不正解としました。機能：「在庫移管した製品に沿って」という趣旨の記述が含まれない解答は厳しいですが不正解としました。
- (2) 正答率が高い設問でした。

〔設問 2〕

- (1) 職務の分離に関する改善内容について解答してもらうことを期待して設問を作成しましたが、正答率が低い設問でした。
- (2) 正答率の高い設問でした。
- (3) 「デッドストックリスト」を必須としました。

〔設問 3〕

- (1) 正答率が高い設問でした。
- (2) 「取引件数の増加状況を加味する」旨の記述を必須としました。

【採点基準】

〔設問 1〕

- (1) システム：解答例と同じものに対し 2 点、その他は基本的に 0 点。機能：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、ただし、「在庫移管した製

品に沿って」という趣旨の記述が含まれることが必須、その他は基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

〔設問2〕

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

(2) 空欄 a：解答例と同じものに対し2点、その他は基本的に0点。空欄 b：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点、その他は基本的に0点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、ただし「デッドストックリスト」は必須、その他は基本的に0点。

〔設問3〕

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、ただし、「取引件数の増加状況を加味する」旨の記述を必須、その他は基本的に0点。

問4 自動運転支援システム

【講評】

計算問題は設問条件を再度確認してから解答欄に記入するようにしましょう。例えば、〔設問2〕(4)において、「小数第一位を切捨て」という設問条件を満たしていない「8」という解答が散見されました。

解答はケアレスミスに留意して注意深く表現するようにしましょう。例えば、〔設問3〕空欄 f において「対向車又は先行車がいるとき」という解答を「対向車・先行車がいるとき」という解答が散見されました。「・」は積として扱う旨が問題文の表4の注釈に記述されています。厳しいですが不正解としました。

問題文にあるキーワードは正確に引用して解答を作成するようにしましょう。例えば、〔設問4〕で「運転支援制御ユニット」を「運転支援ユニット」と記述している解答が散見されました。

〔設問1〕

空欄 a：往復に要する時間だけ遅れることから解答を導く必要があります。低い難易度のつもりで作問しましたが、想定以上に難易度が高かったようです。空欄 b：ドップラー効果を想定して解答を導くとよいでしょう。

〔設問2〕

(1) 正答率が高い設問でした。

(2) 道路標識を挙げている解答が散見されました。下線①において、「歩行者」ではなく「動く歩行者」と記述している点に着目して「先行車」と「対向車」を導きま

としました。なお、「先行車又は対向車」という解答についても、空欄に二つ書いているので、厳しいですが不正解としました。

(3) 趣旨が合っても「距離」と「方向」のどちらか片方しか記述していない解答は部分点2点としました。

(4) 「小数第一位を切捨て」という設問条件を満たしていない「8」という解答が散見されました。

〔設問3〕

空欄 f を「対向車・先行車がいるとき」という解答が散見される以外は、正答率が高い設問でした。

〔設問4〕

厳しいですが、完答以外は得点なしとしました。

【採点基準】

〔設問1〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点、その他は基本的に0点。

〔設問2〕

(1) 解答例と同じものに対し5点、その他は基本的に0点。

(2) 解答例と同じものに対し5点、その他は基本的に0点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点、ただし、「距離」と「方向」のどちらか片方しか記述していない解答は部分点2点、その他は基本的に0点。

(4) 解答例と同じものに対し5点、その他は基本的に0点。

〔設問3〕空欄 f, g：解答例と同じものに対し各5点、その他は基本的に0点。空欄 h~j：解答例と同じものに対し各2点、その他は基本的に0点。

〔設問4〕解答例と同じものに対し6点、その他は基本的に0点。

<午後Ⅱ>

問1 業務要件の整理について

設問イにおいて「削除」や「変更」というキーワードを使って明示的に論じていない論文が散見されました。趣旨にある「開発コストや作業時間の無意味な増加」に沿って、設問アの「業務要件の問題点」を論じると趣旨に沿った論文になる可能性が高いです。設問イにおける業務要件の削除や変更に展開しやすくなります。7割くらいの選択率でした。

問2 システム改修時の有効なテストの実施について

情報を基にして、どのようにテストの計画や実施に反映させたかをアピールしていない論文が散見されました。設問イでは、どのような情報を基にして、どのよう

な検討を行い、どのようにテストの計画や実施に反映させたのか、を論じます。検討結果をテストに反映させたことをしっかりとアピール論じることが重要です。3割くらいの選択率でした。

問3 業務システムと接続した組込みシステムの開発について

選択者が少ないため、講評すべき点はありません。

<合格に向けて>

次のような改善策を参考にして、自分の改善すべき点を確認し、合格しましょう。

〔午前Ⅰ・Ⅱ 多肢選択式問題〕

学習方法基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強することです。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。素晴らしい論文を書いている受験者に、前回不合格になった原因を聞くと、午前Ⅱにおいて足切りになった方が多いことが分かります。午前Ⅰ免除の方も、午前Ⅱ対策については、試験直前まで、継続するようにしましょう。

〔午後Ⅰ 記述式問題〕

過去問題の演習を中心に学習を行い、解答については、本試験と同様に鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満足する解答を作成することが重要です。**解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェック**してみましょう。

〔午後Ⅱ 論述式問題〕

制限時間内に書くためには、問題文の趣旨に沿って事例の詳細を展開させるように書くことが重要です。ただし、問題の趣旨を、なぞるように書くことはやめましょう。しっかりと掘り下げて書くことが重要です。一般論を展開するのではなく、**対象業務の特徴や、システムの特徴を踏まえて、論旨展開**することが大切です。

以上を踏まえて、本試験当日までがんばって、合格をより確実にしましょう。

－以上－